

2016 年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—社会イノベーション学部—

社会イノベーション学部長 古川 良治

評価項目 14 のうち、13 項目において 5 点尺度で平均値 4 点以上となっており、概ね良い評価を得ていると考えられる。昨年度の同時期のアンケートでは 4 点以上が 10 項目であったことと比較して、さらに良い結果となっていると言える。最も平均値が高かったのは「この授業によく出席した(4.63)」であり、学生が積極的に授業に参加していたことがうかがえる。一方で「予習または復習をよくした(3.43)」は全項目中で最低の値であることから、授業時間以外での学習において課題の残る結果となっていた。この他、評価が高かった項目は、「総合的にこの授業を評価できる(4.41)」「教員は授業時間を有効に利用した(4.37)」「授業への教員の熱意を感じた(4.37)」「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた(4.36)」「シラバスと内容が一致していた(4.36)」であり、この他の項目も昨年度と比べて評価が上がっていた。

「総合的にこの授業を評価できる」との相関係数が高かったのは、「この分野の関心と学力が得られた(0.77)」であり、学習の成果を実感できたことが総合的な評価と関連している様子が見える。この他に相関係数が高かったのが、「授業への教員の熱意を感じた(0.69)」「シラバスと内容が一致していた(0.65)」「教員の板書、スライド等の文字は読みやすかった(0.65)」「教員は教室内が学習にふさわしい状態に保たれるよう心掛けた(0.64)」であり、教員の授業への取り組む姿勢や、視覚的にわかりやすくすることが授業満足度に対してより大きな影響をもたらすことが示されていた。これら以外に相関係数が比較的高かったのは、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった(0.62)」「教員の話し方は明瞭であった(0.61)」「教員は授業時間を有効に利用した(0.60)」であり、相関の高かった項目に関しては引き続きこれまでの授業努力を維持していくことが望まれる。